

岐阜のつたえ話

こう
攻

皆さんは、岐阜市にたくさんのつたえ話があることを知っていろいろな場所に伝わるお話を知り、その場所を散策して

ゆうべが池(合渡)



河渡橋の北1.5km

つたえ話のあらすじ

伝右衛門という大地主が住んでおり、広い田んぼを持っていました。いつも田植えの時期になると村のお百姓さんたちに手伝ってもらいますが、一日では田植えは終わりません。翌日に田植えを続けようと残った苗を田んぼにそのまましておきました。すると、その田んぼは一晩で池になってしまいました。それからは、お百姓さんたちは、残った苗はその日のうちに片づけるようになったということです。

このほかにもいくつかのつたえ話が残っています。とっても広い池と芝生の公園があります。釣り糸をたれている人もたくさんいます。中学生以上は釣りをするのに遡漁証が必要です。

岐阜市北西部のつたえ話

- 「火消し『のノ字組』」(則武)
- 「こしきじぞう」(島)
- 「おたすげつね」(城西)
- 「べんけいのくれた山」(西郷)



おべにわた 小紅の渡し(鏡島・合渡)



小紅の渡し事務所



渡し船から長良川を望む

つたえ話のあらすじ

300年ほど前、紅という娘が渡し船に乗って、鏡島弘法の近くに住む船頭の弥助のところへ嫁にきた。

3年後、船頭になった弥助の手伝いをする紅の姿があった。

紅はお客にいろいろな話をした。鏡島弘法を梅寺というようになった訳、鏡島にはママシがないこと、黒田の柳のことなど。女船頭紅は、たいそう評判になった。...

君も小紅の渡しに乗って、涼しい川風に吹かれながら、女船頭「紅」の話を思い浮かべてみるといいよ。

☆小紅の渡しは、4月～9月は8時～17時
10月～3月は8時～16時30分まで運行しています。
月曜日・増水時はお休み。

事務所は河渡橋上流の一日市場(ひといちば)にあります。
対岸の鏡島の方から声をかけても船がきてもらえますよ。



岐阜市南西部のつたえ話

- 「将軍の飲んだお茶」(且格)
- 「尾なし竜」(鶺)
- 「蛙と亀と智通上人」(市橋)
- 「久雲寺の鶏」(加納)



「岐阜のつたえ話」

編集 岐阜のつたえ話編集委員会
著作 財団法人 岐阜市教育文化
発行 財団法人 岐阜市教育文化

